

航空自衛隊小牧基地申し入れ行動

戦争法が、国会で強行採決をされた翌月の2015年10月から、第4土曜日に小牧基地申し入れ行動を継続しています。

この行動は、長年申し入れを続けている〈ノーモア南京〉名古屋の会と東海民衆センターも行っています。今回は、熊本地震に際しての自衛隊、米軍の参加に関してです。3月には、昨年に引き続き、航空祭でのブルーインパルスが、周辺自治体の反対にも関わらずおこなわれました。その時々の特時を絡めて申し入れを行っています。土曜日後午前中ですが、お時間のある方はご参加ください。



熊本地震への支援活動に関わる要請書

小牧基地指令 野中 盛様

隊員の皆様

日ごろの業務ご苦労さまです。とりわけ、4月14日の熊本地震発生以後、現地自治体の要請に応じるかたちで、すすめられている自衛隊の人命救助、生活支援の活動に従事されている隊員の皆さん、本当にご苦労さまです。東日本大震災のときも、自衛隊の皆さんの活躍が現地の人たちのはげみになったといわれています。4月19日より、小牧基地は入間基地とともに、食料などの支援物資の集積、輸送の拠点とされ、直接配給の一翼を担っています。今後とも被災された方々に寄り添う支援を進めていただきたいと思います。

私たちは被災されたみなさんの安全が確保され、一日も早い日常生活の再建がなされることを心よりお祈りします。

被災者の心によりそう支援が必要ですが、私たちは自衛隊あるいは政府の支援にいくつかの懸念を持っています。それは日米ガイドラインや戦争法（安保関連法）で定められた日米の戦時役割分担や、民間業者をまきこんでの有事体制づくりの準備が、「支援」のなかに組み込まれていることです。軍事目的のために災害支援が利用されることはあってはなりません。

災害対応では初めて米軍新型輸送機MV22オスプレイが投入されました。たびたび事故を起こし、安全性を疑問視されているオスプレイをわざわざ投入することの意味がわかりません。「佐賀空港へのオスプレイ配備を念頭に政治的アピール」（オスプレイ配備に反対する住民の会会長の談 中日新聞）と指摘されていますし、専門家も「九州には大規模な自衛隊のヘリ部隊がある。自衛隊の手が足りていないとは聞かない」（軍事評論家・前田哲男さん 中日新聞）とされています。また、海上自衛隊の護衛艦「ひゅうが」と米軍オスプレイの共同訓練は、「離島奪還」という上陸訓練を目的に日米の実戦的軍事演習としてなされています。

また、4月18日、米軍のC130輸送機が航空自衛隊千歳基地から熊本空港へ自衛隊員10名と車両4台を輸送したとされます。オスプレイと同様にその必要性に疑念がもたれます。

民間フェリー「はくおう」は4月20日、自衛隊員90人を乗せて神戸新港から八代に行き、そのまま八代沖に停泊し、避難所として使用するというのです。これも、同じくその必要性に疑念がもたれます。

東日本大震災時に米軍は「トモダチ作戦」をおこないました。このときの費用67億円は結局、日本の予算として計上されていました。「トモダチ作戦」は日米同盟の政治的アピール以外なものでもありませんでした。

震災支援の名による日米同盟の政治的アピールをやめてください。今多くの人たちが熊本、大分の人たちの惨状に心を痛めています。同じように多くの人たちが、日本が戦争をする国になるための日米同盟に反対しています。政治的アピールのために震災を利用することをやめてください。なによりも、隊員の皆さんの被災者に寄り添う支援活動をお願いします。

2016年4月23日

不戦へのネットワーク

代表 飯島滋明（名古屋学院大学教授）

名古屋市中村区那古野1-44-17

嶋田ビル203

